

## 団体名 特定非営利活動法人 夢創房室戸迎鯨の杜

### 事業名

## ふるさと再発見いさなっ子育成プロジェクト

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

### 事業目的

自然環境の保護と啓発など環境保全活動及び次代を担う子ども達に自然体験活動を通じて、大自然に親しみ共に生きていくという心や郷土愛を育み、自然や環境保全の重要性も再認識してもらう活動を行うことを目的とした。

### 事業概要

事業区分：一般事業

補助金：344千円（総事業費 388千円）

実施期間：令和6年 8月 1日～ 令和7年2月 21日

施行場所：室戸市吉良川町東の川 他



### 事業内容

自然環境保全と次代を担う青少年の育成のため、観察会や自然体験活動を実施し、今後の手引書になる「生き物図鑑ファイル」「ガイドブック(早見表)」の策定に着手した。

現地調査・観察会;3回 8/19, 8/22, 11/4

イベント(リバーサイドフェスタ);2回 8/22, 11/4

ワークショップ;8/5, 8/14, 8/19, 8/22, 10/17, 11/4, 1/14, 1/15, 2/4, 2/15



## 結果と分析

---

高知市内や地元の小学生、また保護者の参加もあり、有意義な観察会や川辺の自然体験活動が実施できた。参加者からは、おおむね好評価を得ることができた。特に、地元小学生が、ふるさとの河川をよく理解するに至ったのはよかったと思う。

また、講師の先生と地元有識者で、今後の活動のツールとして、ガイドブックやクリアファイルの早見表の制作を手掛けることができた。時間的制約があり、製本には至らなかったが、その原本はできたので今後これを印刷製本化していきたいと考えている。

## 今後の取組に向けて

---

河川の調査も一定進んだし、これまでより小学生を中心に河川環境の理解も高まったと考えられる。今後は、これらをベースにさらに内容を深化させていき環境保全活動、自然体験活動を充実と継続化を図っていきたい。また、今回得た資料とさらなる観察資料を基にガイドブックを作成し、誰もがいつでも親しみをもって自然観察や体験活動ができるよう支援していきたいと考えている。

## 団体名 高知昆虫研究会

### 事業名

## 機関紙「げんせい」100号出版記念イベント開催事業

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

### 事業目的

機関紙100号発行を記念してイベントを行い、昆虫を採集、調査、研究標本作製、標本継承の大切さを広く社会へ向けて情報発信するとともに、これから一緒に活動していく仲間を探し出すことを目的とした。

### 事業概要

事業区分：一般事業

補助金：500千円（総事業費776千円）

実施期間：令和6年7月19日～12月17日

施行場所：オーテピア4階研修室・集会室（高知市）



### 事業内容

#### 1. 機関紙「げんせい」100号印刷発行

200部印刷（発刊日：令和6年12月1日）。100部は会費から会員配布用として支出し、残り100部はオーテピアで開催のイベントで参加者へ無料配布した（来場者：126名）。

#### 2. 機関紙「げんせい」100号発行記念イベントの開催

12月14日にオーテピア4階研修室・集会室を会場に開催。同会設立時のメンバーや鱗翅目、直翅目など専門的な研究者から近年の環境と昆虫相の状況について話題提供を頂くとともに、「高知の自然を未来へ伝える」と題し、大学生と研究者を交えた総合討論を行った。同日同会場で、当会会員や県立小津高校生から県内希少昆虫類などの標本展示会を開き、高知県の昆虫の多様さと面白さを紹介した。このイベント開催を広く告知するために宣伝用チラシ、ポスターの配布を県内193の小中高等学校、市内18のふれあいセンターに配布するとともに、SNSでの発信、環境調査企業団体、教育委員会や報道機関への協力、後援依頼を行った。



## 結果と分析

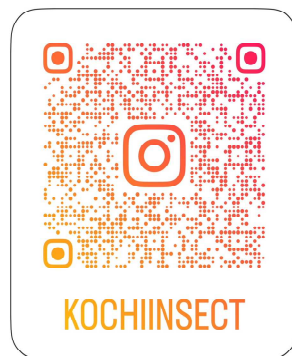
本事業では、これまで長きにわたり県内の昆虫研究の歴史について資料を紐解き、設立時の貴重な講演とともに高知の自然環境の在り方について広く発信する機会となった。これまで内包的であった研究分野であることから若手育成については常に課題であったが、情報発信の在り方や活動内容などの広報活動により、より多くの研究者の育成の機会となる団体に発展する事が期待される。更に、標本収蔵施設の歴史や課題なども共有することができた。本イベント終了後の新規会員は4名と少なくはあったが、2024年3月末で56名の会員が、本イベント開催に向けた準備や企画などの活動により、2025年1月現在は83名となり、10代から30代の会員が全体の25%となった。



講演の様子

## 今後の取組に向けて

今後もより多くの県民や研究者のための観察会や標本作製会、勉強会などを大学や関係団体、企業などと連携して企画提案する。情報発信についてはSNSを基本とし、誰でも気軽に参加できる内容に努めていく。



高知昆虫研究会  
Instagram



高知昆虫研究会  
入会申込書

## 団体名 波川公民館

### 事業名

## 波川木漏れ日公園環境保全事業

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

### 事業目的

波川木漏れ日公園を、ヒメボタルが多く見られる環境にし、地域外から多くの人々が来られるようにする。また、このフィールドをヒメボタルの聖地とし、環境学習の場所として利用できるよう、取り組む。

### 事業概要

事業区分：一般事業  
補助金：219千円（総事業費 219千円）  
実施期間：令和6年8月1日～ 令和7年2月28日  
施行場所：波川木漏れ日公園（いの町波川）



### 事業内容

ヒメボタルの乱舞する「木漏れ日公園」を目指し、昆虫、植生の専門家の意見を聞きながら、生息に適した環境づくりとして、放置竹林の伐採、下草刈りを行い、環境学習の場として、トラップによる幼虫調査、観察会を実施する。



### 結果と分析

放置竹林の伐採と下草刈りを、10月中旬に実施した。半年前に、散策道周辺を中心に夜間安全に観察でき、ホタルに極力影響を与えない範囲で実施しており、今回は、幼虫が土に潜っている時期に、地面を踏み荒らさないよう配慮して実施した。

幼虫調査は、11月にトラップを使って実施したが、気温やトラップの構造により、幼虫の確認がごく一部しかできなかった。これを踏まえ、3月下旬に、トラップの仕掛けを改善し、より効果的な幼虫調査を試みる。

幼虫観察会は、地域の親子を中心に100名以上が集まった。

### 今後の取組に向けて

3月下旬にも幼虫調査と観察会を実施予定である。今後、事業主体を波川公民館から、支援団体を含めた関係者も含めた協議会組織を立ち上げ、運営がスムーズに、また組織の負担の分散を試み、広報等についても手段の再検討をし、活動を継続していく。

## 団体名 とさ自由学校

住所：高知県吾川郡いの町勝賀瀬 4387 連絡先：088-897-0011 代表者：橋本 正博

### 事業名

## 学校・地域が連携した里山づくり

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

### 事業目的

本校は、学校周辺の豊かな自然を活動のフィールドとして、教育活動を展開している。里山としての機能を十分に発揮できる環境にあるが、過疎化が進んでおり、人と自然の関わりが希薄になってきていることを踏まえ、地域と連携した里山づくりに取り組むこととした。地域の方と話し合い、アスレチックや遊具の新設を行わず、放置竹林や森林の整備をすることとした。

### 事業概要

事業区分：一般事業

補助金：150千円（総事業費 164千円）

実施期間：令和6年9月11日～令和7年2月21日

施行場所：学校裏山（いの町）

### 事業内容

#### ○12・1月：整備計画の立案

子どもたちと、講師の川端さん・地域の方と現地を歩き、いくつかの課題が見つかった。過去に作ったアスレチックの製作によりロープに強く縛られた木の跡を見て、「自然も、自分たち人間もしあわせな環境とは？」という問いが生まれた。子どもたち、講師の川端さん、地域の方との話し合い、大きく①入口の階段づくり・ロープをはるチーム②過去のアスレチックの修繕チームの2つに分かれて整備をしていく方向で話が進む。



#### ○1月：道整備（子ども・地域の方・保護者の方）

〈過去のアスレチックの解体や、立ち枯れの木の整備〉

子ども、地域の方、保護者の方で立ち枯れの木や朽ちた竹の整備、朽ちて危険なアスレチックの解体を行う。「手入れをすることで、うっそうとした雰囲気のある山が変わった。」との子どもたちの感想があった。

〈坂道にロープの設置〉

子どもたちでロープワークを学び、「1年生でも登りやすい」をキーワードにロープをはった。ロープの張る場所も、何度も試行錯誤していた。



### 〈階段状の足場設置〉

土質のことから、木を足場にしたり、杭を打つことは不可能であったが、講師の川端さんより、「来るたびに直すことが大事。」と教えてもらい、行く度に熱心に修正を重ね、足場が完成した。

### ○2月：現在あるアスレチックの修繕とこれから

〈アスレチックの修繕〉ネットは朽ちていなかったが、木への負担が大きいことから、以前はっていたハンモックのロープと木の間に、細い木をはさみ、木への負担を減らした。

### 〈次年度作成に向けての準備〉

子どもたちで話し合っ、今後(来年)の「遊び場」の活用を目指し、どんな裏山にしたいか模型を作成した。模型は、地域の方、講師の川端さんに子どもたちからプレゼンを行った。

## 結果と分析

---

### ① 地域の方とのつながり

今回の裏山整備にあたり、継続的に地域の方と、子どもたちとの関わりが生まれた。はじめに、山登りのコツ、山の危険さ、昔の山の様子を聞いた。また、生物多様性にまつわる本や、整備のためのつるはしをお借りすることができた。その結果、本プロジェクトが子どもたち、普段交流が希薄になりつつある地域の方とつながる大きな機会となった。来年度も、引き続き関わりたいという意見を地域の方より頂くことができた。

### ② 子どもたちに自然への配慮の視点が生まれる

数年前、子どもたちの願いで作成したアスレチックは作ったあと、そのまま放置されていた。自分たちの「作りたい!」という思いで作ったものによって木が苦しい思いをしていたことがわかった。講師の川端さんからも、「自然に何かを作るというのは、その時だけではなく、その先のことを考えなければならない。」と聞いた子どもたちが決めた目標は、「人と自然を大切にしながらみんなが楽しい場所にしよう。」であった。来年度に向けた模型作りでも、「どこに作ると自然への負担が減らせるか?」と考えた。

## 今後の取組に向けて

---

### ① 遊び場としての整備・新たな遊具の新設

学校にいるすべての児童が、本プロジェクトを認識しており、「来年一緒に関わりたい。」という声が聞こえるようになった。また、講師の川端さんより「山に入る人がいなくなればなるほど、山は廃れていく。」との話が合った。このことを聞いたプロジェクトに関わる児童たちからは、今年は整備のみであったが、自然に配慮した新たなアスレチックを作り、より山を魅力的にしていくことが、必要であると、前向きな提言があった。既に作成した模型をもとに、地域の方の協力を得ながら引き続き進めていきたいと考えている。

### ② 竹の活用

今回、放置され朽ちた竹の整備はできたが、その竹の活用などには至らなかった。来年は、竹炭の体験を通して、肥料作りをしたり、竹籠の作成など、「竹」の有効活用に迫っていきたい。

## 団体名 遠山を守る会

住所：高岡郡四万十町琴平町1-1 (一社)四万十町観光協会内

連絡先：0880-29-6004

代表者：武田 茂男

### 事業名

## 遠山自然公園観察道整備修繕事業と希少植物観察会

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

### 事業目的

遠山を守る会では、発足当時から遠山自然公園の多種多様な草原性植物や湿原性植物の生育環境を守るために定期的な草刈りや野焼きを続けてきた。また、ここにしかない希少植物の観察会を実施することで保全活動の情報発信をし、希少植物減少の一つの原因である盗掘の被害から地域のたくさんの目で見守る体制作りを心掛けてきた。また地元の小中学生を招いて観察会を開くことでは、子どもたちが地域を知り郷土愛を培い、将来的な環境保全活動を担う人材の育成を目指している。この事業を通して観察道の整備を行い、人と自然がふれあう遠山自然公園の利用促進を図ることを目的とする。

### 事業概要

事業区分：一般事業  
補助金：500千円（総事業費561千円）  
実施期間：令和6年8月1日～令和6年11月30日  
施行場所：遠山自然公園(四万十町)



### 事業内容

#### ①遠山自然公園観察道整備修繕事業 栈橋改修工事

重機を入れず防腐剤を使わず環境を大きく損なうことのないように、腐りにくい松を柱に、桧を栈橋に、ボルトはステンレス製を使用して木道を改修した。

#### ②希少植物観察会

東又小学校の6年児童を招き、希少植物の観察と外来植物の草ひき作業を行った。観察会では、まず6月の観察会時との環境の変化に気づかせ(マクロの目)、秋の実りの季節の「タヌキマメ」の種の観察をルーペで行い(ミクロの目)、視点の違いで見えてくるものが変化することに気づかせた。観察の後、外来植物(メリケンカルカヤ)の草ひきを行い、環境保全についても考えてもらった。





## 結果と分析

---

栈橋改修工事では、重機を入れず、希少な植物を保全した形での工事をお願いし、ミズゴケやモウセンゴケなどの生育環境が守られた形で工事が終了した。工事で出た廃材は、遠山を守る会会員で片付け、生かせる材は他の木道の補修に敷き、朽ちた材は2月の野焼きの火付けに使うように移動させ、全工程が環境保全につながった。新栈橋は、9月末と11月の一般観察会でも、10月半ばの東又小学校児童の観察会でも活用し、安全で快適な観察会を行うことができた。

また、この事業で購入したルーペを児童の観察会で使用したところ、大変に好評で、後日届けられた感想文には、期待通りの子どもたちの思いがつつられていた。

## 今後の取組に向けて

---

参加者がガイドの後について回る観察会を長年行ってきたが、受け身の内容だけでなく、触ってみたりルーペを使ったミクロの目で観察してみたりなど、体験型の観察会もこれから企画していきたい。

11月の一般参加観察会では、草むらで隠れていた穴に参加者が足を突っ込み転倒する事案が発生した。幸いなことに捻挫等の怪我はなかったが、来年の観察会シーズンに向け、穴を埋めたり新たに板を敷いた木道を整備したりするなど、オフシーズンの公園整備の課題が見えてきている。

木道や栈橋がかなり老朽化している公園の東側の観察道についても、整備補修していく必要があるので、補助金申請を含め、検討課題が山積している。

また、保全活動の情報発信や後継者育成のためにも、遠山を守る会のホームページを立ち上げ、広く広報活動にも力を入れていきたいと考えている。

# 団体名 特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター

住所:須崎市下分乙 470-1 新庄公民館内 連絡先:0889-40-0840 代表者:理事長 濱田哲暁

## 事業名

# 高知県内の生物情報を収集、発信する事業

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

## 事業目的

高知県内の最新の生物生息情報を収集するとともに、生物情報の収集および蓄積の重要性について情報発信し、県民と共有する。高知県の自然への興味関心の喚起を図り、これからの地域生態系保全と人と野生生物との共存について考えるきっかけを提供する。

## 事業概要

事業区分：一般事業

補助金：500千円（総事業費 505千円）

実施期間：令和6年7月19日～令和7年2月3日

施行場所：高知県内全域



## 事業内容

### 活動1. 横倉山周辺の生物情報の発信

当センターが横倉山および周辺地域において、生物相に関して総合的に行ってきた調査の成果報告冊子を作成し、横倉山の自然環境の現況について広く発信した。

### 活動2. 高知県内の生物情報の収集

高知県における小型哺乳類（コウモリ類、ネズミ類、モグラ類）の生息状況を把握するための捕獲調査を行った。

## 結果と分析

### 活動1. 高知県内の生物情報の発信

横倉山生物総合調査成果報告冊子を800部作成し、四国自然史科学研究センター、越知町立横倉山自然の森博物館の来館者および越知中学校の生徒へ無料配布した。また、ホームページにデータファイルを公開した。

### 活動2. 高知県内の生物情報の収集

高知県内20カ所で小型哺乳類の調査を行った。これまで、データが無かった市町での生息情報や、過去約20年間高知県内では確認されていなかった種の生息情報を得ることができた。



上記の活動により、発表ポスターをまとめた冊子を手にした人々に対して、高知県の自然への興味関心の喚起を図り、これからの地域生態系保全と人と野生生物との共存について考えるきっかけを提供できた。また、捕獲調査を行うことで生物情報の証拠資料として収集、蓄積を進めることができた。

## 今後の取組に向けて

---

本事業で収集した生物情報は当センターが発行する研究紀要や、その他学会等で公表する予定である。また、今後も引き続き、小型哺乳類の捕獲調査は継続し、生物情報の収集、蓄積を進めていく予定である。

## 団体名 公益社団法人生態系トラスト協会

住所：高岡郡四万十町大正 31-1 連絡先：0880-29-4011 代表者：中村滝男

### 事業名

## 県鳥 60 周年・ヤイロチョウの日記念イベント

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

### 事業目的

県鳥 60 周年という記念すべき年にあたり、将来的に県民がヤイロチョウをもっと身近に感じ、40 年後に県民が心から親しみと誇りを持って「県鳥ヤイロチョウ 100 周年」を迎えていただくために何ができるか、何を目標にすればよいか、現地視察のワークショップや、シンポジウム、大規模なアンケートの実施等を通じて県民と一緒に考える機会にするため本イベントを計画した。

### 事業概要

事業区分：一般事業

補助金：500千円（総事業費 512千円）

実施期間：令和6年 7月 19 日～ 令和7年 2月 16日

施行場所：① 四万十町大正下道地区

- ・ヤイロチョウ営巣地見学
- ・ヤイロチョウ営巣地の森のミズ調査
- ・ヤイロチョウの森周辺で植生調査

② 黒潮町佐賀「鹿島」

- ・黒潮町佐賀「鹿島」にて無人島ミズ・外来種調査

③ 高知市オーテピア

- ・県鳥ヤイロチョウ60周年記念シンポジウム



### 事業内容

(1) 令和6年8月16日午前

ヤイロチョウ営巣地見学

四万十町大正下道で7月に繁殖したヤイロチョウの営巣地を見学する。当協会がするヤイロチョウの森の観察路のすぐそばに巣があり参加者が安全に観察することが可能であった。そのほかブッポウソウの巣箱、ヤマセミやカワセミの巣の跡を見学する。



(2)令和6年8月16日午後  
ヤイロチョウ営巣地の森のミミズ調査

7月に繁殖をした森と以前に繁殖を行った森の2か所で調査を行う。1m四方に目印をつけ、そこをていねいにかき分け、ミミズや昆虫類を調査した。



(3)令和6年8月17日午前  
黒潮町佐賀「鹿島」にて無人島ミミズ・外来種調査

2年前の夏にサンジャクの繁殖を確認した黒潮町佐賀の無人島「鹿島」に渡船で上陸。サンジャクの調査及びミミズや昆虫類の調査を行う。



(4)令和6年8月17日午後  
四万十町下道ヤイロチョウの森周辺で植生調査

講師に牧野植物園の鴻上泰さんを迎え、津賀ダム湖畔のトレイルロードを約1kmにわたって、草花や樹木の植生を調査、観察する。

(5)令和6年8月18日午後  
オーテピアにて  
県鳥ヤイロチョウ60周年記念シンポジウム

ヤイロチョウ調査員の報告、野生のヤイロチョウの生態、飼育下のヤイロチョウの生態、エコツアーガイドの報告、侵略的外来種サンジャクの実態など多彩な報告を行った。



## 結果と分析

(1) ヤイロチョウの森で営巣地見学会 参加者 20名

ネイチャーガイドの丹野洸貴さんに案内をしていただき、7月に繁殖をしたヤイロチョウの巣の跡を見学した。今年の営巣地(当協会の管理する森)が町道から林道を500mほど登ったところにあり、安全を確保できる場所だったため、参加者全員が巣のそばまで近づいて観察することができた。自然の

中でのヤイロチョウの巣を見ることができ貴重な機会になった。そのほか、ヤマセミやカワセミが巣をかけた崖などの見学、大正下道地区のブッポウソウが利用する巣箱の見学も実施した。

(2) ヤイロチョウの森でミミズ調査 参加者 10 名

ミミズ博士の南谷幸雄さん(栃木県立博物館学芸員)の指導により、ミミズ調査の手法を学び、ヤイロチョウの営巣地での調査を行った。数種類のミミズや甲虫類などを見つける。8月に高温が続いたこともあり、ミミズが減少していた。秋の営巣地見学の時には、ヒキガエルを見つけた。

(3) 黒潮町にある無人島でミミズや外来種の調査 参加者 8 名

落ち葉の堆積が多く、ミミズなどの生息環境は整っている。ミミズや節足動物も見つかる。トビやアオゲラの巣跡は見つかる。3年前に繁殖を確認した外来種サンジャクの姿はなかった。

(4) 四万十ヤイロチョウの森で植物調査 参加者 11 名

津賀ダム湖の右岸のトレイルロードに沿って、2 時間ほどの植生調査を行う。59 種類の植物を見つける。特定の植物に寄生する昆虫との共生関係など鴻上泰さんの解説を拝聴しながらの興味深い観察会となった。ヤイロチョウの繁殖地までは、時間的にたどり着けず、その入り口の調査にとどまった。

(5) 県鳥ヤイロチョウ60周年記念シンポジウム 参加者 52 名

- ①この 10 年間でヤイロチョウがヘビの対策としてタヌキの糞を使うことやヤイロチョウが青い羽根をたててマムシと戦うことなど新しい発見があった。また、ここ数年バーダーにとってはヤイロチョウが憧れの鳥になっている。
- ②県鳥となったとき、県民から 469 人のはがき投票があったことなど、60 年のあゆみがあきらかになった。ヤイロチョウは 180 票で決定(ムクドリ 177 票)。
- ③ヤイロチョウ調査員の報告から、ヤイロチョウの子育てなど野生のヤイロチョウの生態が、美しい映像によって紹介される。
- ④ミミズを環境指標にした生態系保全対策の提言がされる。ミミズは土壌生物を活性化させ、豊かな土をつくること。ヤイロチョウとミミズの関係が明らかにされた。
- ⑤そのほか、飼育下のヤイロチョウの生態、エコツアーガイドの報告、侵略的外来種サンジャクの実態など多彩な報告がされて、現状の課題などが明らかにされた。

(6) 県鳥 60 周年ヤイロチョウの日特別企画アンケート調査 参加者 62 名

当日の感想を中心に、参加してよかったこと。観察のルールづくりなど意見があった。(集約中)

(7) シンポジウムは、YouTube で一部を公開して視聴いただいた。

## 今後の取組に向けて

シンポジウムでは、外来種サンジャクがヤイロチョウ保護上の新たな課題として紹介された。また、その後のアメゴ池の整備などを通じて、在来種の四万十川原産のアメゴの保護に、トラスト地が役立つ可能性が見えてきた。野鳥と野生の魚類という違いはあるが、いずれも、『在来種の保護』という共通のテーマを持っている。

奥四万十に取得したヤイロチョウの森から流れ出る水が、四万十川を通じて土佐湾に至る無数の生物の生存を支えていることに着目して、ヤイロチョウの生息地の森の保護活動が、下流域の農林漁業やホエルウォッチングなどの観光業とも連携した運動に広げて、40 年後の「ヤイロチョウ 100 周年」を迎えることが出来るように、今後も活動を広めて継続・発展させたいと願っている。

## 団体名 高知に自然史博物館をつくる会

### 事業名

## 高知に自然史博物館をつくるための県民意識調査 及び収蔵場所適地の検討

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

### 事業目的

高知に自然史博物館をつくるための県民意識調査の実施及び収蔵場所適地の検討。

### 事業概要

事業区分：ステップアップ事業

補助金：200千円（総事業費200千円）

実施期間：R6年7月19日～R7年2月5日

施行場所：高知県

### 事業内容

高知県内に存在する自然史科学標本を使って活動する県立自然史博物館設立に対する民意を把握するとともに現在県内に存在する生物標本の一時保管場所を探す活動を展開した。民意を把握するために、高知県に必要であると考えた自然史博物館の具体的なイメージ資料を会員と共に内容を練り、イラストレーターにデザインを頼み作成した。作成したイメージ資料を用いて、高知県の自然の変遷の証拠である標本を残すためには、このような施設が必要であることを伝えた。そのうえで、高知県にこうした施設を作り上げる必要があるのか？作ったら活用するか？などの意向を把握するアンケート調査を1月1日より開始した。

標本保管場所として旧須崎高等学校の教室が利用できそうか8～12月にかけて教室内に温湿度計を設置し、標本保管に適正な環境であるかを調査した。

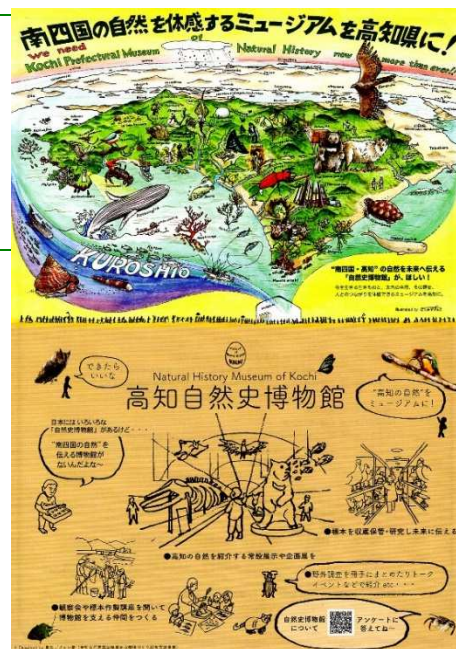
### 結果と分析

アンケート調査では、2月4日の時点で、3200件以上の回答を得た。このうち、高知県に県立自然史博物館ができれば、行ってみたいと思うとの回答は、2661件(82.9%)であった。多くの方に高知県立自然史博物館設立に賛同してもらえることが分かった。

調査の結果、現状のままでは標本保管に不適だが、光と熱を遮断するために窓へ銀マットなどを張り付けたり、湿度管理のために除湿器を導入したりすれば、活用できることが分かった。

### 今後の取組に向けて

アンケート調査は継続し、高知県民からの回答数が一万件となった時点で最終集計を行い、高知県民の民意として今後の活動に活用する。標本保管場所として廃校利用を引き続き模索する。



## 団体名 土佐塾中学・高等学校 科学部

住所：高知市北中山85番地

連絡先：088-831-1717

代表者：竹島 雅子

### 事業名

## 高知県内の海岸に打ち上げられる微小貝の調査

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

### 事業目的

高知県内のどのような海岸にどんな種類の微小貝が打ち上がっているのか。海岸環境の現状と打ち上げ貝の種類や微小貝の存在を明らかにし、微小貝の海岸マップを作り発信する。打ち上げ貝を使ったワークショップをおこない、砂浜や微小貝に興味を持ってもらい、海岸環境を守る活動につなげていく。

### 事業概要

事業区分：ステップアップ事業(ジュニア枠)

補助金：100千円(総事業費112千円)

実施期間：令和6年8月1日～令和7年2月21日

施行場所：高知市、土佐清水市

### 事業内容

微小貝の分類：興津小室の浜の微小貝の分類

成果発表：10月20日(日)高知県生徒理科研究発表会

ワークショップの実施：学園祭、学校説明会、青少年のための科学の祭典

フィールドワークの実施：12月13日(金)土佐清水市大岐の浜

&lt;大岐の浜の微小貝&gt;(白実線四角は1辺10mm)



### 結果と分析

興津小室の浜で採集した微小貝の分類をすすめ、10月の「高知県高等学校生徒理科研究発表会」において研究成果を発表した。採集したいずれの地点でも巻貝が二枚貝の個体数を上回っており、二枚貝ではチリメンカノコアサリが多かった。

本校の学園祭、学校説明会や高知大学で行われた「青少年のための科学の祭典」において、「微小貝さがし」のワークショップを実施した。小室の浜で採取した砂から微小貝をさがし出してカードや標本瓶を作成してもらった。興津小室の浜や微小貝について知ってもらうことができた。

12月13日には土佐清水市大岐の浜でフィールドワークをおこない、大岐の浜で砂を採取している様子  
砂の採取、海岸環境の観察をした。また、海のギャラリーを見学し貝について学習した。校内から参加者を募りパンフレットを作成して実施したので、微小貝の研究内容、大岐の浜や竜串の海岸環境だけでなく広く海について知らせ考え体験する機会となった。



### 今後の取組に向けて

大岐の浜で採取した砂から微小貝を取り出し分類調査をすすめていく。校内・校外での研究発表や「微小貝さがし」のワークショップを引き続きおこなっていきたい。



## 団体名 南国市立長岡小学校

住所: 高知県南国市下末松 97

連絡先: 電話 088-864-2309

代表者: 校長 彼末 健一

### 事業名

## 長岡の環境を守り隊

補助対象事業区分: 自然環境を守る取組

### 事業目的

児童(5年生2クラス)は、「長岡の環境」をテーマに探究的な学習を行う。用水路・学校のビオトープの生き物調べや稲作体験等の体験的な学習から、校区の生物多様性や自然環境を生かした産業(稲作・園芸)の特色等について理解と愛着を深める。学習の成果は本校の創立150年誌に掲載し、地域に広く発信する。

### 事業概要

事業区分: ステップアップ事業(ジュニア枠)

補助金: 100千円(総事業費100千円)

実施期間: 令和6年7月19日～令和7年2月21日

施行場所: 長岡小学校区



### 事業内容

探究的な学びの過程を大切に。様々な体験学習(ビオトープや用水路、水田の生き物調べ等)から生まれた気づきや疑問をもとに探究課題を設定した。5年1組は校区の自然環境を生かした産業について、5年2組は地域の生き物や植物について探究していくこととなった。調べ学習や地域の様々な方(水生生物研究者、稲作・園芸農家、造園業者、レストラン経営者、タウン情報誌編集者等)との交流学习を通して、情報を収集し、それらを整理・分析するなかで、児童は、地域の自然環境の豊かさや自然を生かした産業・生活の特色等への理解と愛着を深めっていった。



### 結果と分析

校区の豊かな環境を守っていきたいという児童の願いの高まりと、校区の自然環境の魅力を本校の創立150年誌に掲載するという活動は、児童のまとめ・表現活動への強い意欲づけとなった。1組の児童は、地域の自然環境を生かした特産品をPRすることとなった。2組は、校区の水田や用水路で発見した多様な生き物がどのような環境を好むのかを調べ、昨年度に自分たちが造った庭とビオトープが、生き物にとって生息しやすい環境になっているかを検証した。記念誌の記事の執筆・編集では、タウン情報誌の編集者の方に助言をいただいたことで、児童は具体的なイメージをもって活動することができた。

## 今後の取組に向けて

---

1組の児童は、ピーマンの佃煮入りおにぎりを校区にあるレストランのメニューにしてもらうことを目標に活動を続けている。2組の児童は、庭とビオトープがより多様な生き物が生息しやすい環境となるよう考えながら、手入れとリニューアルに取り組んでいる。また、その魅力を全校児童に伝えるために、庭とビオトープを活用したイベントを継続して行っている。執筆・編集作業中である学習のまとめは、次年度に発行する「創立150年記念誌」に掲載される。

## 団体名 香美市こどもエコクラブ

### 事業名

## 郷土の自然 ぼくらが受け継ぎ 未来へつなぐ！

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

### 事業目的

- ①「みやびの丘」での植樹・育樹活動、②物部川での水生生物調査・川遊び、
- ③物部川河口近辺の海岸でのゴミ調査の成果や課題をまとめ、保護者、地域、お世話になった方々に向けての活動発表や講演会を行うと共に、これからの郷土の自然への関わり方を考える。

### 事業概要

事業区分：ステップアップ事業(ジュニア枠)  
補助金：100千円(総事業費100千円)  
実施期間：令和6年7月19日～令和7年2月21日  
施行場所：香美市内

### 事業内容

当クラブ結成15年目。本年度は、①奥物部自然林での環境学習、②物部川での水生生物調査、③岸本海岸でのゴミ調査を中心に環境学習やエコ活動を行った。

令和7年1月26日(日)には、「郷土の自然 ぼくらが受け継ぎ 未来へつなぐ!」のテーマで、これまで活動を支援してくださった方や保護者、地域の方々を招待し、「香美市こどもエコクラブの15年間の活動発表と元(株)環境エネルギー総合研究所の大庭みゆき先生による「これからの環境活動に向けて」と題する講演会を開催した。



### 結果と分析

奥物部の自然林、物部川、岸本海岸等での体験活動や、専門家や地域の方々の支援をいただきながら環境学習を充実させることができた。

1年間かけて、これまでの15年間の歩みをまとめ、「香美市こどもエコクラブ 活動発表・講演会」が開

催できた。大庭みゆき先生による「これからの環境活動に向けて」の講演は、地域のつながりを広げる趣旨で子どもたちも大人もたいへん学習が深まった。

## 今後の取組に向けて

---

当クラブの活動テーマは、①「奥物部の自然林で起こったシカ被害から山を守る!」、②「Cool Choiceを地球に広める!」である。

本年度は、活動テーマ①に重点を置いて15年間のまとめを行った。来年度は、活動テーマ②に重点を置いて活動の充実とまとめを行う計画である。

## 団体名 ジンデ池生物研究所

### 事業名

## 知ってほしい！ジンデ池の生き物たち —生物調査・保全活動を通して—

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

### 事業目的

ジンデ池生物研究所の活動をよりたくさんの人に知ってもらい、活動を広げていくために定例の生物調査や冬季の保全活動を SNS や HP で呼びかけて参加してもらう。

生き物と触れ合う楽しさ、里山環境を保全する大切さを知る機会を作る。

### 事業概要

事業区分： ステップアップ事業(ジュニア枠)  
補助金： 97千円(総事業費 97千円)  
実施期間： 令和6年8月1日～ 令和7年1月26日  
施行場所： ジンデ池周辺(須崎市安和)



### 事業内容

- 毎月メンバーで行っている生物調査をたくさんの人に体験してもらい生き物と触れ合う楽しさを知ってもらう機会をつくる事を目的に SNS で呼びかけた。
- ジンデ池の保全活動を 12/8 に行った。  
多くの参加者や地域の住民、小学生の参加もあり池の中の除草や池の周りの木の伐採を行い、里山保全につながる活動になった。



### 結果と分析

SNS での広報は初めての試みだったが、定期調査に小さな子ども連れの親子が参加するなどの効果はあった。イベント等で SNS や HP をお知らせしフォロワーが増えつつあるので今後も継続してジンデ池生物研究所の活動を発信することは重要と感じた。

また道具を色々揃えられたことで、定例調査での一般参加の他、他団体からの生物観察会の依頼があった時の大人数参加にも対応ができるようになった。タープやテント、ウォータージャグがあることで熱中症のリスクを軽減でき安心して活動に取り組めたと思う。

保全活動には地域の安和小学校の 5, 6 年生や集落活動センターあわの方々が参加、協力して下さり少しずつこの活動が地域の活動として根付いてきたように思う。

### 今後の取組に向けて

今後は SNS だけでなく色々工夫して広く活動を知ってもらえるようにしていきたい。生き物と触れ合う楽しさを知ってもらう機会をつくり、里山環境保全を続け、生物多様性の豊かな環境を守っていきたい。ジンデ池生物研究所の活動をきっかけにして子ども達から里山を守る意義などについて深く知れたとの感想も聞かれることから、今後も工夫しながら継続していきたい。